



# 2014年3月期 決算短信補足資料

---

2014年5月15日  
日本水産株式会社

## ◆前年比で増収増益

### 【水産事業】

国内の水産物の市況回復やニッスイ個別で在庫コントロールに努めたこと、海外では不振事業の縮小・撤退や、魚価回復による鮭鱒養殖事業の収支改善などにより大幅な増収増益

### 【食品事業】

国内で円安による輸入原材料高騰の影響を、生産性向上や販売経費削減、販売価格改定などにより一部をカバー、海外では北米で苦戦するも、ヨーロッパは順調に推移

### 【海外の不振事業に一定の目途】

- SealordGroup(ニュージーランド:持分法適用会社)  
アルゼンチン子会社全株式を売却し、アルゼンチン事業から撤退  
(撤退に伴う当社の損失負担額▲16.0億円)
- ロヒタム(ドイツ:冷凍食品の製造・販売)  
全株式を売却(売却損 ▲6.1億円)
- 山東山孚日水(中国:水産品・冷凍食品の製造・販売)  
出資金を持分比率14.89%まで譲渡 (売却損 ▲7.8億円)

◆水産事業、食品事業、ファイン事業ともに増収増益。水産事業の利益が改善

(単位:億円)

	2014年3月期 実績	2013年3月期 実績	増減
売上高	6,042	5,668	373
水産事業	2,538	2,329	209
食品事業	2,826	2,680	146
ファイン事業	285	275	10
物流事業	138	133	4
その他	252	249	2
営業利益	139	58	81
水産事業	50	▲ 25	75
食品事業	27	19	8
ファイン事業	75	73	2
物流事業	15	18	▲ 2
その他	12	11	0
全社経費	▲ 41	▲ 38	▲ 2
経常利益	123	54	69
当期純利益	37	▲ 47	85

※撤退会社及び再編会社による売上高への影響額  
▲130億円

※為替換算による売上高への影響額(試算) +395億円

※撤退会社及び再編会社による営業利益への影響額 +21億円

# 連結損益計算書(前年比)



(単位:億円)

	2014年3月期 実績 売上高比	2013年3月期 実績 売上高比	増減	増減率
売上高	6,042	5,668	373	6.6%
売上総利益	1,240 20.5%	1,202 21.2%	37	3.2%
販売費・一般管理費	1,100	1,144	▲43	
営業利益	139 2.3%	58 1.0%	81	139.8%
営業外収益	37	45	▲7	
営業外費用	53	48	4	
経常利益	123 2.1%	54 1.0%	69	127.1%
特別利益	21	20	1	
特別損失	34	96	▲62	
税金等調整前当期純利益(▲損失)	110 1.8%	▲21 ▲0.4%	132	—
法人税等	56	47	8	
法人税等調整額	3	▲3	7	
少数株主損益調整前当期純利益(▲損失)	50	▲66	116	
少数株主利益(▲損失)	12	▲18	31	
当期純利益(▲損失)	37 0.6%	▲47 ▲0.8%	85	—

## 主な増減要因

### 【販売費・一般管理費】

主にニッスイ個別の人的費、販売費、管理費の削減努力によるコストダウン等

### 【営業外収益・費用】

受取利息 約4億円減少  
為替差益 約2億円減少 等

## 主な内訳

### 【特別利益・損失】

- 固定資産売却益 約14億円
- 関係会社売却損 約16億円

# 連結貸借対照表(前期末比)



流動資産 2,097 (+81)	流動負債 1,962 (▲61)
	固定負債 1,516 (▲43)
固定資産 2,219 (+18)	純資産 837 (+204)
総資産 4,316 (+99)	うち自己資本 663 (+165) <i>自己資本比率 15.4%</i>

(単位:億円)

主な増減要因					
資産	+99	流動資産	+81	現金及び預金	▲72
				受取手形及び売掛金	+26
				商品及び製品	+82
				仕掛品	+53
				原材料及び貯蔵品	▲7
		固定資産	+18	有形固定資産	▲31
				無形固定資産	▲16
				投資その他の資産	+67
負債	▲104	流動負債	▲61	短期借入金	▲28
				未払費用	▲42
				長期借入金	▲36
		固定負債	▲43	退職給付引当金	▲170
				退職給付に係る負債	+153
		純資産	+204	利益剰余金	+37
				その他有価証券評価差額金	+21
				為替換算調整勘定	+79
				退職給付に係る調整累計額	+21

自己資本比率 '13/3 11.8% → '14/3 15.4%

( )内の数字は前期末比増減

# 連結キャッシュ・フロー計算書(前年比)



(単位:億円)

	2014年3月期	2013年3月期	増減	内訳	2014年3月期	2013年3月期	増減
営業活動によるCF	181	151	29	税金等調整前当期純利益(▲損失)	110	▲21	132
				減価償却費	168	168	▲0
				退職給付引当金の増減額	-	18	▲18
				退職給付に係る負債の増減額	▲10	-	▲10
				事業整理損失	-	83	▲83
				運転資本の増減額	▲93	7	▲101
				利息及び配当金の受取額	13	23	▲9
				利息の支払額	▲34	▲37	2
				法人税等の支払額	▲54	▲47	▲7
				その他	51	▲52	104
投資活動によるCF	▲116	▲213	96	有形固定資産の取得による支出	▲132	▲192	60
				有形固定資産の売却による収入	34	29	5
				投資有価証券の取得による支出	▲57	▲17	▲40
				投資有価証券の売却による収入	36	22	13
				子会社株式の取得による支出	-	▲44	44
				連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得支出	-	▲15	15
				短期貸付金の増減額	2	▲18	21
財務活動によるCF	▲118	84	▲203	短期借入金の増減額	▲36	25	▲62
				長期借入れによる収入	195	431	▲235
				長期借入金の返済による支出	▲268	▲347	79
				配当金の支払額	-	▲13	13
現金等の期末残高	138	181	▲43				

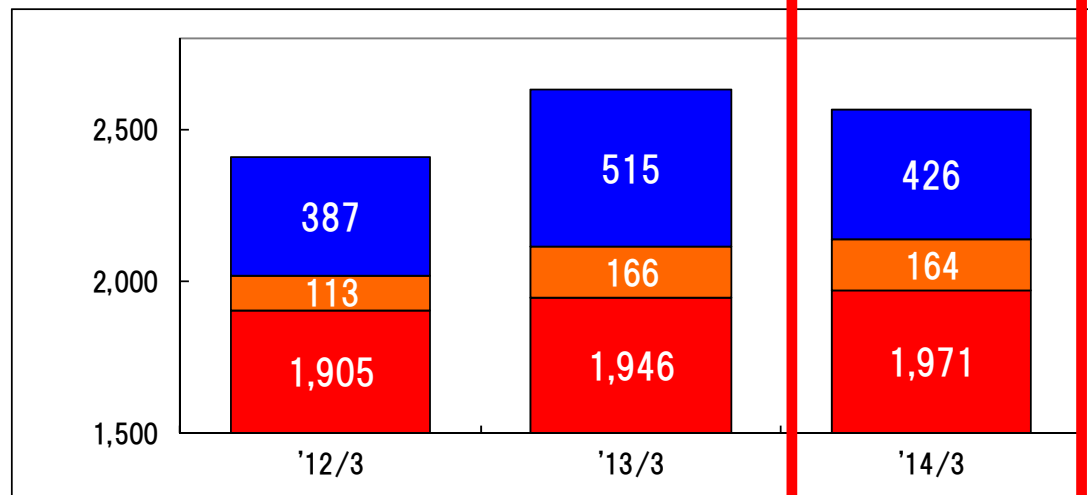
※営業活動によるCFの「その他」には前渡金の増減額等が含まれる。

# 連結借入金・純金利負担



(単位:億円)

- 海外関係会社
- 国内関係会社
- ニッスイ個別



前期末  
比増減

▲88

▲2

+25

借入金合計	2,405	2,626	2,561	▲65
短期借入金	1,207	1,307	1,278	▲28
長期借入金	1,197	1,319	1,282	▲36
短期借入金平均利率	1.2%	0.9%	0.7%	▲0.2%
長期借入金平均利率	1.6%	1.4%	1.4%	▲0.0%
純金利負担	18.3	18.1	16.9	
対営業利益純金利負担率	19%	31%	12%	
支払利息	37.3	37.6	32.7	
受取利息	8.1	9.3	4.7	
受取配当金	10.8	10.1	11.0	
為替レート(US\$1)	@77.74(12月末)	@86.58(12月末)	@105.39(12月末)	

※借入金残高推移のうち、為替レート換算による増加額が前期末比で+87億円含まれている。

# セグメントマトリックス売上高(前年比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	1,993 (98)	401 (49)	244 (▲51)	158 (8)	507 (132)	3,305 (236)	▲766 (▲27)	2,538 (209)
	1,895	352	296	150	374	3,069	▲739	2,329
食品事業	2,989 (▲41)	560 (104)		84 (16)	229 (73)	3,863 (153)	▲1,036 (▲6)	2,826 (146)
	3,030	456		68	156	3,710	▲1,030	2,680
ファイン事業	303 (12)			2 (▲0)		305 (11)	▲19 (▲1)	285 (10)
	291			2		293	▲18	275
物流事業	223 (8)					223 (8)	▲84 (▲3)	138 (4)
	215					215	▲81	133
その他事業	297 (▲32)			1 (0)		298 (▲32)	▲46 (34)	252 (2)
	329			1		330	▲81	249
仮計	5,806 (44)	962 (153)	244 (▲51)	246 (24)	737 (206)	7,997 (377)		
	5,761	809	296	222	530	7,619		
連結調整	▲1,425 (10)	▲198 (▲8)	▲176 (0)	▲134 (▲8)	▲19 (3)		▲1,954 (▲3)	
	▲1,436	▲189	▲176	▲126	▲22		▲1,951	
連結計	4,380 (55)	763 (144)	68 (▲51)	111 (16)	718 (209)			6,042 (373)
	4,325	619	119	95	508			5,668

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

※撤退会社及び再編会社による影響額 ▲130億円

※為替換算による売上高への影響額(試算) 395億円



# セグメントマトリックス 営業利益(前年比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計
水産事業	31 (19)	▲3 (▲10)	12 (49)	2 (5)	10 (7)		54 (71)	▲4 (3)	50 (75)
	11	7	▲37	▲2	3		▲17	▲7	▲25
食品事業	24 (10)	2 (▲5)		0 (0)	2 (6)		29 (10)	▲2 (▲1)	27 (8)
	14	8		0	▲3		19	▲0	19
ファイン事業	74 (2)			0 (▲0)			75 (2)	0 (▲0)	75 (2)
	72			0			73	0	73
物流事業	14 (▲2)						14 (▲2)	0 (▲0)	15 (▲2)
	17						17	1	18
その他事業	9 (▲3)			0 (0)			9 (▲3)	2 (3)	12 (0)
	12			0			12	▲0	11
全社経費						▲41 (▲1)	▲41 (▲1)	▲0 (▲1)	▲41 (▲2)
						▲39	▲39	0	▲38
仮計	155 (27)	▲0 (▲16)	12 (49)	3 (5)	12 (13)	▲41 (▲1)	141 (77)		
	128	15	▲37	▲2	▲0	▲39	64		
連結調整	5 (12)	▲0 (▲0)	0 (▲4)	0 (0)	▲7 (▲1)	▲1 (▲2)		▲2 (3)	
	▲6	0	5	▲0	▲5	0		▲6	
連結計	161 (39)	▲0 (▲16)	13 (45)	3 (6)	5 (11)	▲43 (▲4)			139 (81)
	121	16	▲32	▲2	▲6	▲39			58

※上段は当期累計実績、下段は前年同期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる。

※撤退会社及び再編会社による営業利益への影響額 +21億円

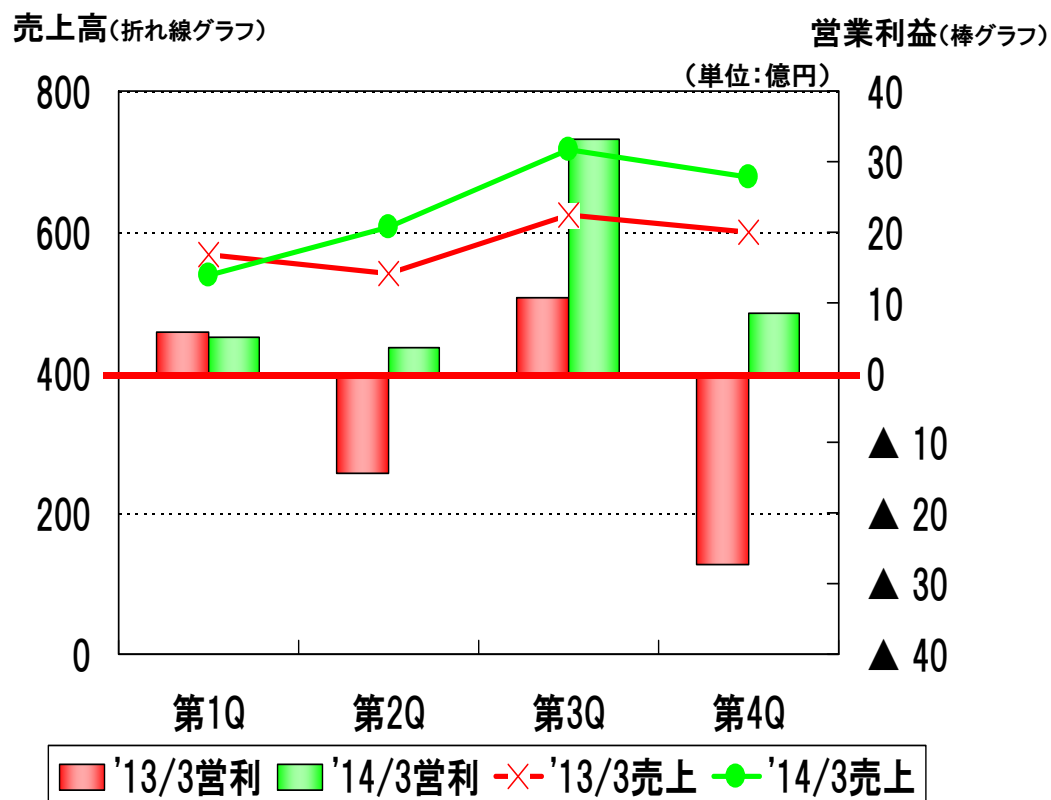
## ◆国内と南米の利益が改善し、増収増益

(単位:億円)

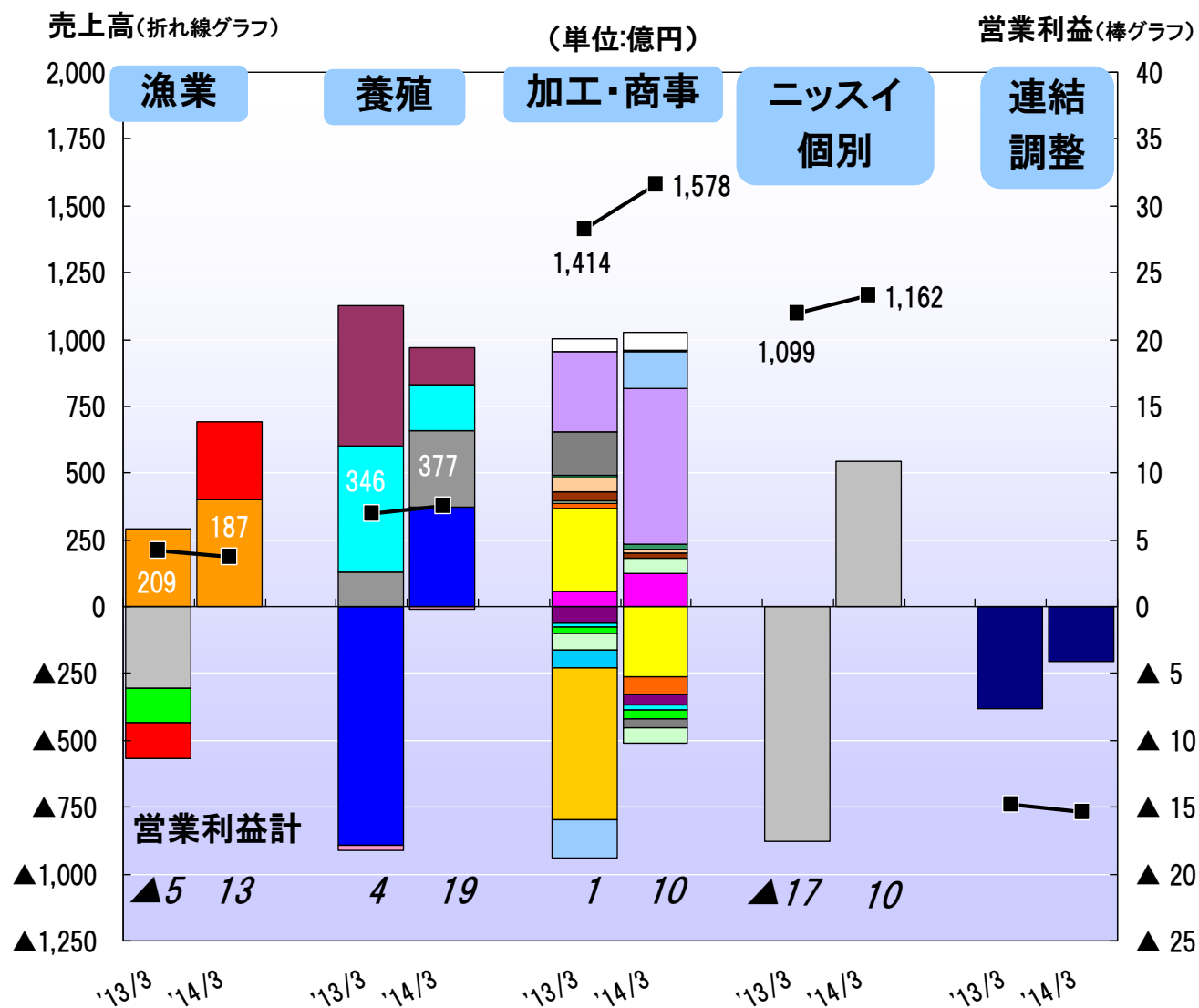
	2014年3月期 実績	2013年3月期 実績	増減
売上高	2,538	2,329	209
営業利益	50	▲ 25	75

### 【決算総括】

- ・国内、海外ともに水産物市況が回復し、魚価が高値で推移
- ・海外の不採算事業の縮小、撤退による収益基盤の安定化
- ・ヨーロッパでは新規市場の開拓による積極的な事業拡大



# 水産事業 売上高・営業利益(前年比)



※漁業、養殖、加工・商事のグラフは連結子会社の合計を記載  
 ※グラフ下部の斜体数値は機能別 営業利益合計数値  
 ※営業利益の連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる

## 主な増減要因

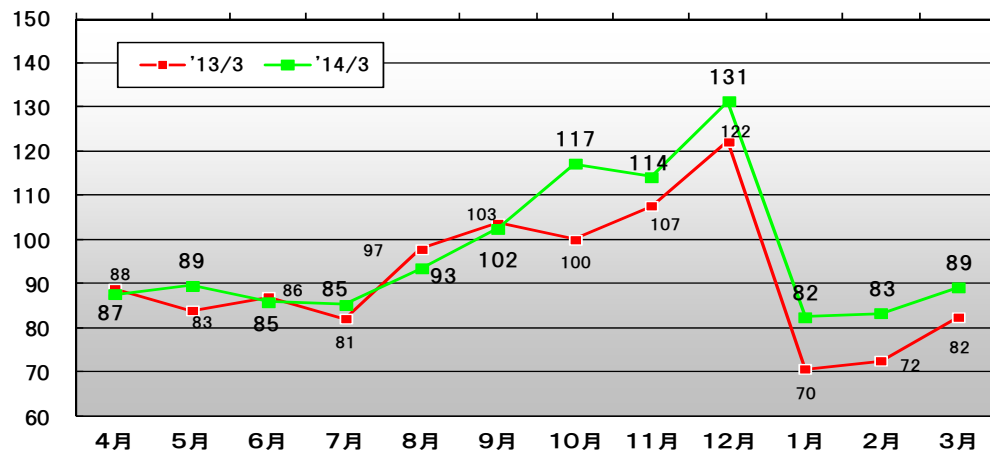
- 【漁業】
  - ・南米の漁撈事業  
事業再編・撤退や効率的な操業により収益改善
- 【養殖】
  - ・国内養殖事業  
ぶり: 魚価・数量共に好調  
まぐろ: 魚価下落、数量増加
  - ・チリの鮭鱒養殖事業  
魚病の影響・飼料コストの上昇により、原価コストが上昇するも、魚価の上昇により利益改善
- 【加工・商事】
  - ・アメリカのすけそうだら事業  
すりみ・フィレは数量増、助子は数量減、価格は全体で下落
  - ・ブラジルのティラピア養殖・加工からの撤退
  - ・ヨーロッパでは販売エリアが拡大し、主要魚種が高値で推移
- 【ニッスイ個別】
  - ・年間通じて計画的な在庫コントロールの実施
  - ・水産物市況の回復  
特に鮭鱒、えびの販売価格の上昇

# 水産事業 ニッスイ個別(前年比)



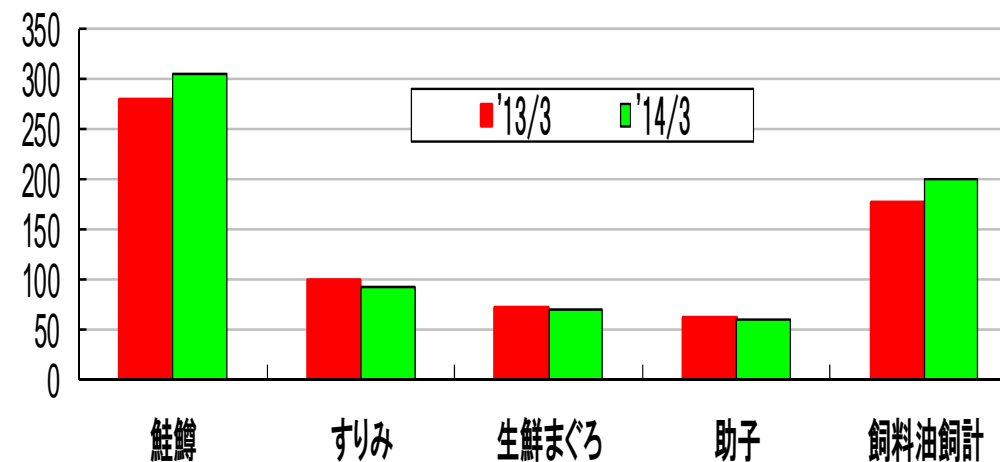
## 売上高(月別)

(単位:億円)



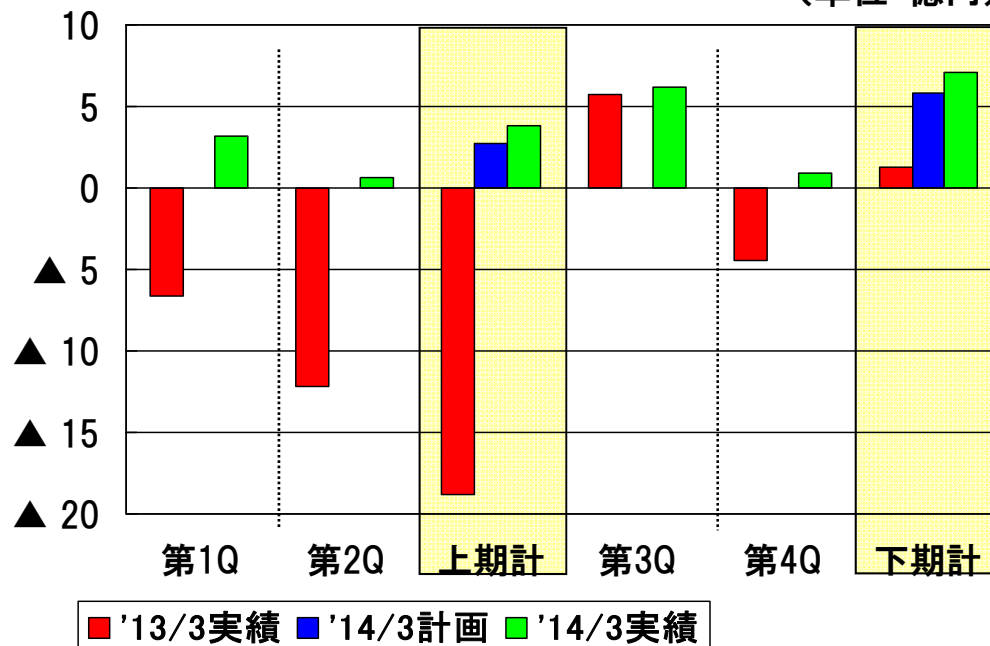
## 主要魚種別 売上高(前年比)

(単位:億円)

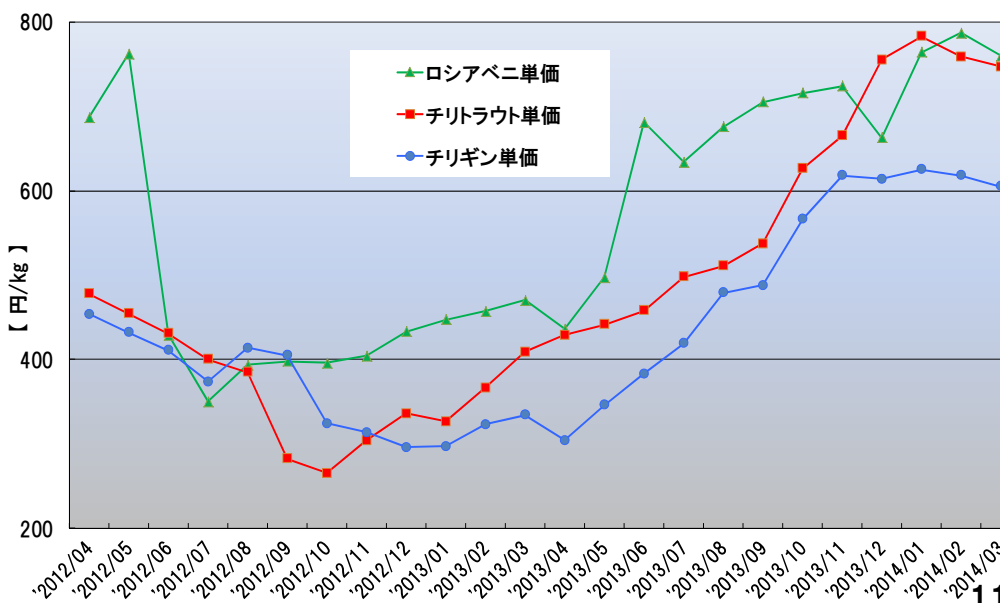


## 営業利益(四半期別)

(単位:億円)



## 水産物市況 鮭鱒(財務省貿易統計より算出)



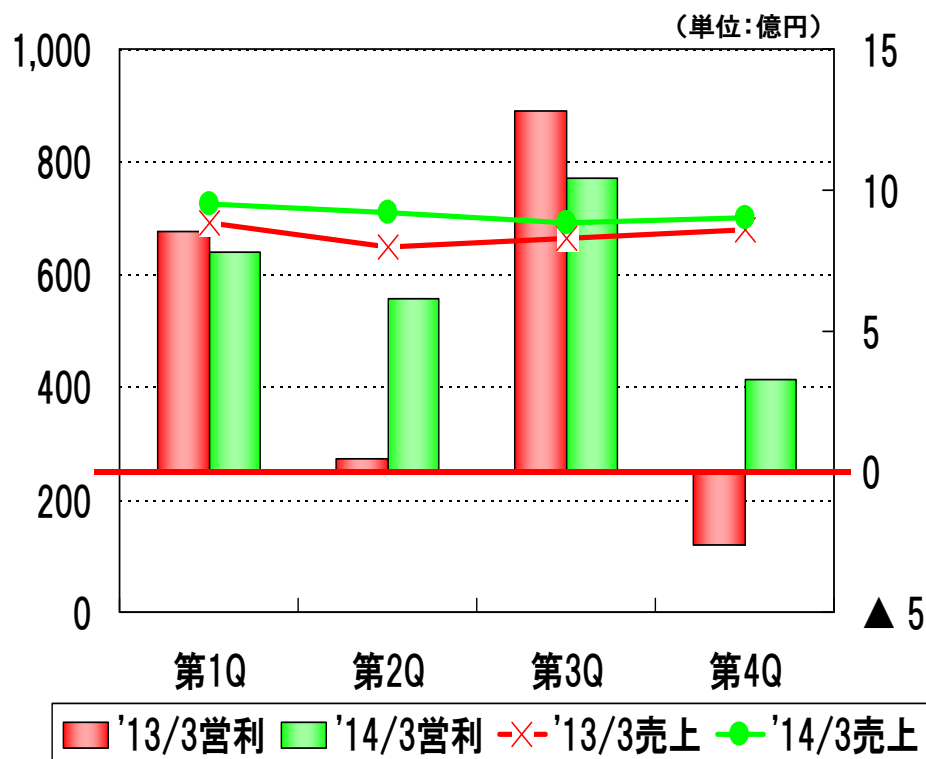
◆ 増収増益。国内は減収ではあるが収支は改善、海外は地域によりバラツキ

(単位:億円)

	2014年3月期 実績	2013年3月期 実績	増減
売上高	2,826	2,680	146
営業利益	27	19	8

売上高(折れ線グラフ)

営業利益(棒グラフ)



【決算総括】

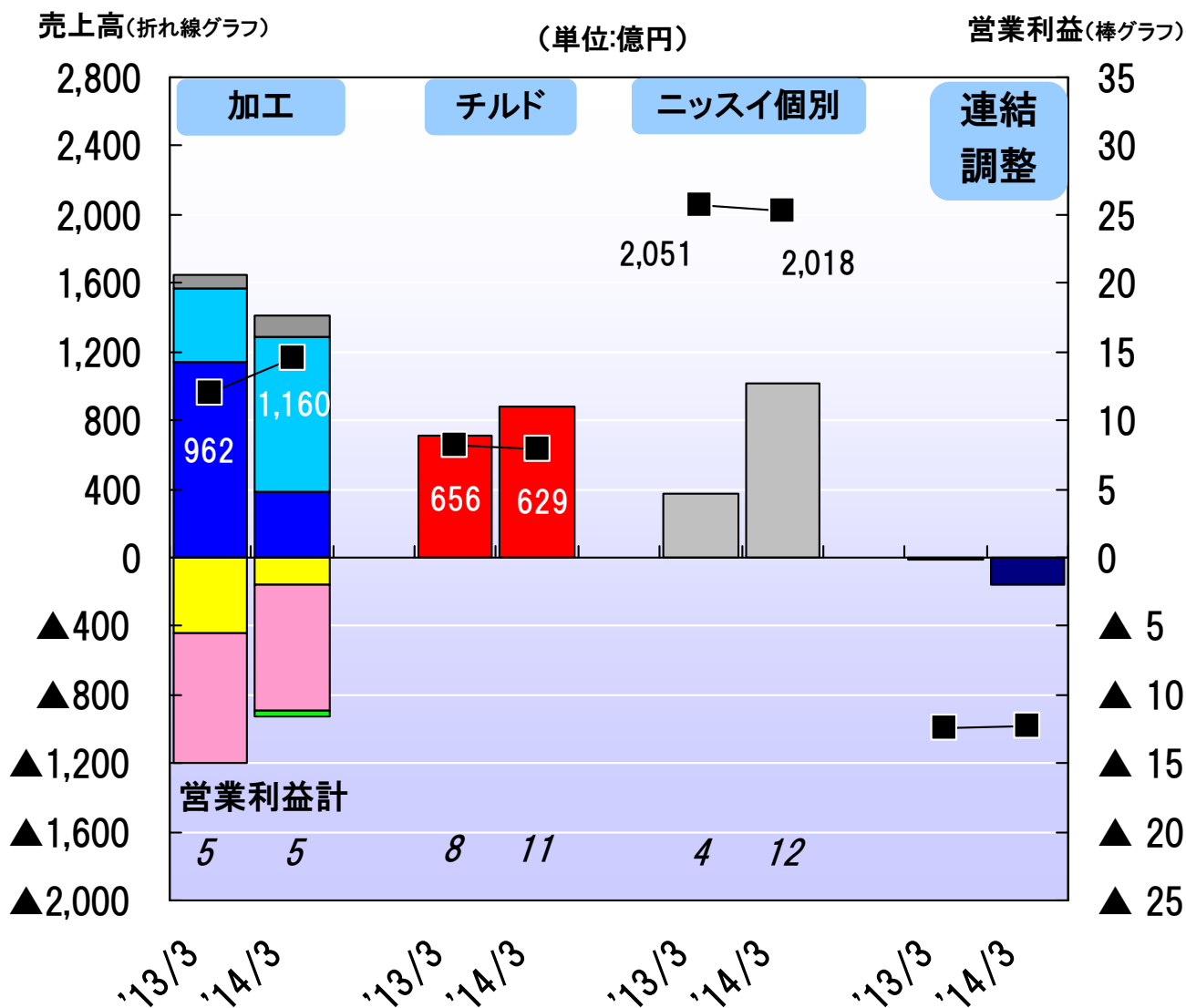
- ・急激な円安のコスト増とそれへの対応
- ・海外の不採算事業からの撤退やリストラなどによる収益体制再構築
- ・ヨーロッパ:生産設備への積極投資による収益拡大



シテマリン社 ミニグラタン



# 食品事業 売上高・営業利益(前年比)



## 主な増減要因

### 【加工】

- ・フランスの水産食品会社  
生産能力増強、生産性の向上、  
新商品投入などにより増益
- ・ドイツの冷凍食品会社  
7月末に売却完了
- ・北米の冷凍食品会社  
厳しい価格競争により減益  
事業の再構築に着手

### 【チルド】

- ・生產品目の見直しにより減収
- ・生産性の改善などにより増益

### 【ニッスイ個別】

- ・円安による輸入原材料・製品の  
コストアップ
- ・生産性向上、販売経費削減など  
のコストダウン、販売価格改定な  
どの取り組みにより増益

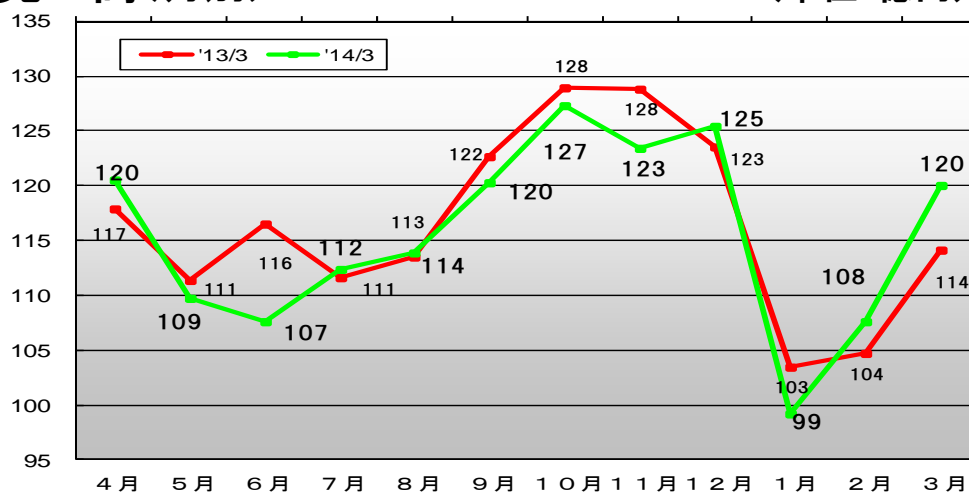
※加工、チルドは連結子会社の合計を記載  
 ※グラフ下部の斜体数値は機能別合計数値  
 ※営業利益の連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益等が含まれる

# 食品事業 ニッスイ個別(前年比)



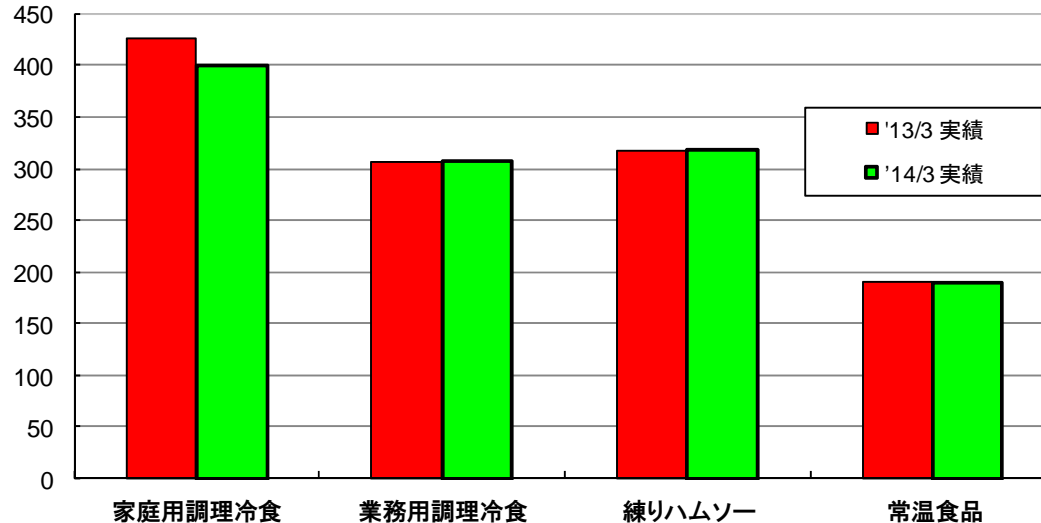
## 売上高(月別)

(単位:億円)



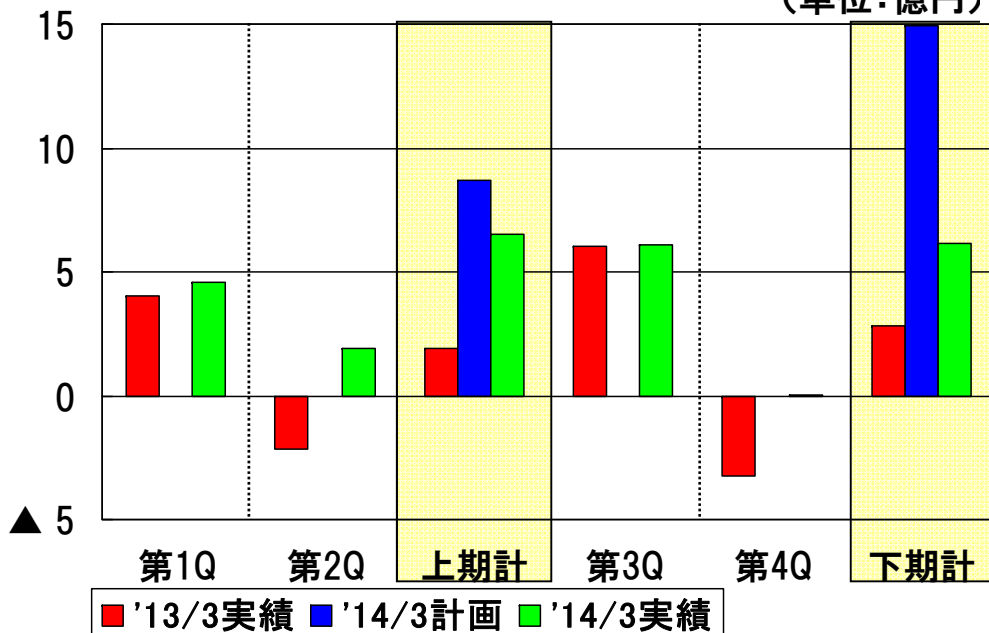
## カテゴリ別 売上高(前年比)

(単位:億円)



## 営業利益(四半期別)

(単位:億円)



- ・為替の影響による原材料コストアップ 26億円
- ・コストダウン、価格改定の効果 40億円



## ◆機能性食品の販売が寄与し、増収増益

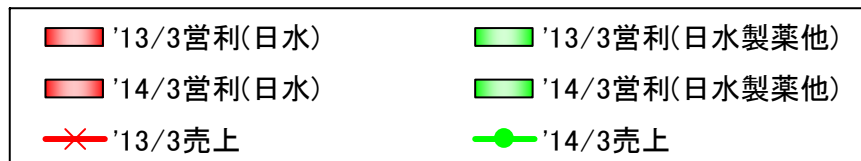
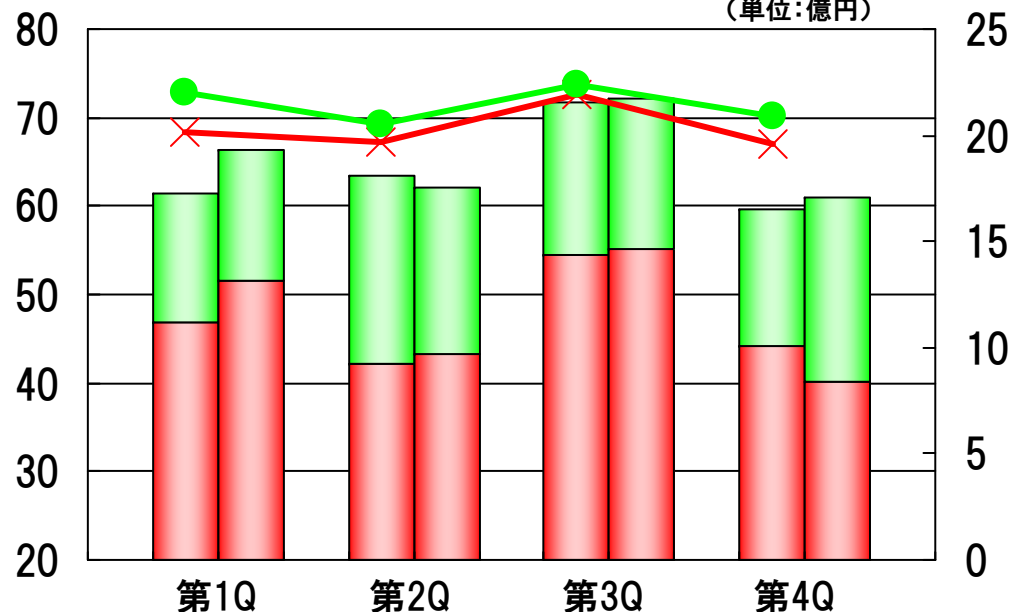
(単位:億円)

	2014年3月期 実績	2013年3月期 実績	増減
売上高	285	275	10
営業利益	75	73	2

売上高(折れ線グラフ)

営業利益(棒グラフ)

(単位:億円)



### 【決算総括】

- ・医薬原料  
第4四半期に次年度からの薬価改定の影響
- ・機能性食品  
通信販売が引き続き好調に推移しているものの、伸びがやや鈍化
- ・日水製薬  
医薬事業、化粧品事業が順調に推移





## ◆ほぼ前年並みで推移。

(単位:億円)

	2014年3月期 実績	2013年3月期 実績	増減
売上高	138	133	4
営業利益	15	18	▲2

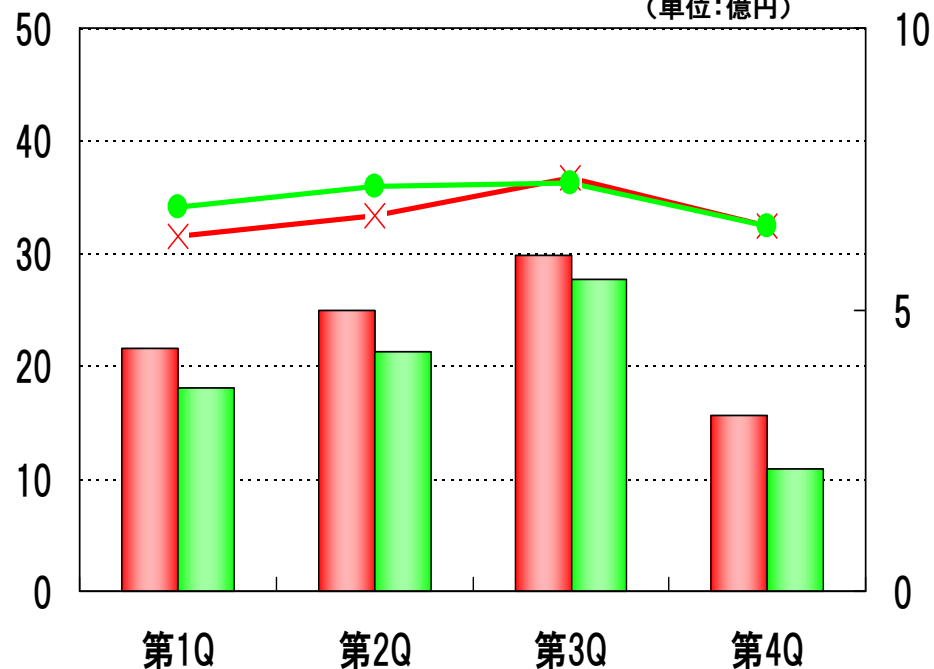
### 【決算総括】

- ・新規の共同配送事業により増収
- ・冷蔵倉庫事業は貨物取扱量が減少

売上高(折れ線グラフ)

営業利益(棒グラフ)

(単位:億円)



■ '13/3営業利益 ■ '14/3営業利益 -x- '13/3売上 ● '14/3売上



# 個別損益計算書(前年比)



(単位:億円)

	2014年3月期 実績	売上高比	2013年3月期 実績	売上高比	増減	増減率
売上高	3,339		3,298		41	1.3%
売上総利益	662	19.8%	661	20.1%	0	0.1%
販売費・一般管理費	634		669		▲34	
営業利益(▲損失)	27	0.8%	▲7	▲0.2%	35	—
営業外収益	53		68		▲14	
営業外費用	40		54		▲13	
経常利益	40	1.2%	6	0.2%	34	562.4%
特別利益	16		13		3	
特別損失	21		17		4	
税引前当期純利益	36	1.1%	2	0.1%	33	—
法人税等	7		1		6	
法人税等調整額	6		▲2		9	
当期純利益	21	0.7%	3	0.1%	18	549.7%

## 主な増減要因

### 【販売費・一般管理費】

主に人件費、販売費、管理費  
の削減努力によるコストダウン等

### 【営業外収益・費用】

受取配当金 約7億円減少  
為替差益 約5億円減少 等

## 主な内訳

### 【特別利益・損失】

- 固定資産売却益 約14億円
- 関係会社売却損 約8億円

<連結>

※予算レート US\$1=108円

	2014年3月期 実績	2015年3月期 計画	増減
売上高	6,042	6,030	▲ 12
営業利益	139	155	15
経常利益	123	160	36
当期純利益	37	73	35

<個別>

	2014年3月期 実績	2015年3月期 計画	増減
売上高	3,339	3,280	▲ 59
営業利益	27	34	6
経常利益	40	51	10
当期純利益	21	37	15

【2015年3月期計画】

（水産事業）

- ①水産品の食材化推進
- ②在庫コントロールの徹底
- ③養殖事業の高度化  
まぐろ配合飼料  
ぶり種苗センターの本格稼働
- ④北米子会社の収支改善  
（助子の取扱い増）

（食品事業）

- ①重点商品カテゴリーへの注力とコストダウン継続
- ②北米冷凍食品会社における生産体制の見直し効果
- ③事業撤退による減収増益  
山東山芋、ロヒタム

（ファインケミカル事業）

- ①薬価改定による医薬品の販売減を生産性向上でカバー
- ②機能性食品の販売強化  
関東エリアでの広告宣伝  
（メディアミックス）の実施による拡大

# 見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因の変化により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社

2014年5月15日発表

証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR室広報IR課

03-3244-4371

<http://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

